

リスキリング

2023. 10. 11

「リスキリング」という言葉と出会った。リカレントやアンラーンとは違うようである。この言葉は、経済産業省から提唱された。この取り組みは、日本企業だけでなく、海外の企業でも行われている。

リスキリングとは、働き方の変化によって、今後新たに発生する業務で役立つスキルや知識の習得を目的に、勉強してもらう取り組みのことである。現代は、第4次産業革命に突入しており、人間に代わってロボットに業務を任せるケースが増えると言われている。業務がロボットに置き換えられると、その業務に携わっていた従業員たちは、働く場を失ってしまう恐れがある。一方、ロボットに置き換えられたとしても、新たな業務も出てくる。とは言っても、スキルを習得していなければ、新たな業務をこなすことはむずかしい。そこで登場するのがリスキリングである。リスキリングによって、新たな業務に関係するスキルや知識を習得しておけば、従業員は別の業務に就ける。

なぜ、リスキリングが話題になっているのだろうか。DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が世の中に浸透してきた点がある。DXとは、社内のデジタル化を進める取り組みである。コンピュータやAIなどのデジタルを活用しながら業務を行うことで、業務効率のアップや良質なサービスの提供など、事業運営によい影響をもたらす。DX関連の業務に携わったことがない方は、聞きなじみのないスキルを習得しなければならない。その結果、リスキリングが注目されるようになった。

また、新型コロナウイルス感染症の流行によって働き方が変わったことも関係している。社内で働いていた方がテレワークに変わったり、顧客とのやりとりが対面からオンラインへ移行したり、既存の働き方では対応できないケースも増えてきた。それに伴い、新たなスキルを身につけなければならない状況になっている。リスキリングでは、企業が新しいスキルを従業員に身につけてもらうことに主軸が置かれている。

学校で働く教員はどうなのだろうか。教員は、研修をするのが当たり前であり、研修をしなければならない立場にある。その中身は充実しているだろうか。もし、充実しているとしたら、もう少し授業が改善されてもいいはずである。

不登校やいじめなどの生徒指導、特別支援教育、ICT教育などについては、研修が新たな知識やスキルの習得につながっている。これらは、その成果が見えやすい。研修しないと、やっていけないという必要性も認められる。

問題は、肝心要の教科の授業である。とりあえず、教壇に立つ教員が、その業務を奪われることはなさそうである。だからといって、今までのままでいいわけではない。もはや、従来の知識やスキルでは対応できなくなっている。学校も、先生方に新しいスキルを身につけてもらう時代がやってきている。